

平成 23 年度交流学習事業

実績報告

仙台市教育委員会 学校規模適正化推進室

目次

- 1 交流学習事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 平成 22・23 年度交流学習モデル事業
 - (1) 平成 22・23 年度交流学習モデル事業
 - 「最終報告」について（総括）・・・・・・ 2
 - (2) 平成 22・23 年度交流学習モデル事業「最終報告」・・・・ 4
 - 秋保小学校・馬場小学校・湯元小学校
 - 根白石中学校・住吉台中学校
 - (3) 平成 22・23 年度交流学習モデル事業アンケート結果・・・・ 8
 - 秋保小学校・馬場小学校・湯元小学校
 - 根白石中学校・住吉台中学校
- 3 平成 23 年度交流学習事業 実施報告・・・・・・・・・・・・ 16
 - 生出小学校・坪沼小学校（H21～）
 - 作並小学校・大倉小学校（H21～）
 - 根白石小学校・福岡小学校・実沢小学校（H21～）
- 4 平成 24 年度交流学習事業について・・・・・・・・・・・・ 22
 - 平成 24 年度交流学習事業スケジュール（予定）
 - 平成 24 年度交流学習事業の実施内容（一覧）

交流学習事業について

山間部及び沿岸部の小規模校における教育環境の向上を図る新たな方策として、学校間で合同授業等を行う交流学習事業を実施しています。

交流学習事業の対象校は、仙台市教育委員会が平成 20 年 8 月に策定した「仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた実施方針」の中で、一定規模の基準（小学校：12 学級以上，中学校：9 学級以上）を満たしていないものの，通学距離の基準（小学校：概ね 4km 以内，中学校：概ね 6km 以内）を超える地域があるため隣接校との統合が難しいことから，統合以外の「新たな方策」を検討する必要があると位置づけた小学校 16 校（うち分校 2 校），中学校 4 校です。

【 目 的 】

山間部及び沿岸部の小規模校の児童や生徒が，授業や学校行事などを合同で行い，新しい出会いの中から，より多くの仲間とのかかわり合いを持ち，学び合う楽しさや意義を体験するとともに，コミュニケーション力，あるいは多様な人間関係の中での協調性等をより一層身に付けていくことができるような教育環境の向上を目的としています。

【 概 要 】

交流学習事業は平成 21 年度から平成 23 年度までモデル事業として実施し，事業の効果や課題を検証してきました。平成 21・22 年度の 2 年間のモデル事業として小学校 8 校（4 事業），平成 22・23 年度の 2 年間のモデル事業として 3 小学校（1 事業），2 中学校（1 事業）において実施しました。

モデル事業を実施した結果，授業時数の確保などの課題はあるものの，コミュニケーション力の向上や中一ギャップの解消などにつながる有意義な事業であることが確認できました。今後は事業を継続して実施し，課題などに関して検討を加えながら，よりよい形で展開を図っていくために実践を積み重ねていきます。

（参考：これまでの取り組み）

	H21	H22	H23	備考
荒浜小・東六郷小				H21・22 モデル事業
生出小・坪沼小				
作並小・大倉小				
根白石小・福岡小・実沢小				※実沢小学校は H23 から一緒に実施
秋保小・馬場小・湯元小				H22・23 モデル事業
根白石中・住吉台中				

※荒浜小・東六郷小の交流学習については，津波により学校施設が使用できなくなるなどの理由で，平成 23 年度については実施困難と判断。

※実沢小については，平成 23 年度から実施しています。

※住吉台中については，一定規模の基準を満たしています。

平成 22・23 年度
交流学習モデル事業

- 秋保小学校・湯元小学校
馬場小学校・秋保中学校
- 根白石中学校・住吉台中学校

平成 22・23 年度 山間部等の学校における

交流学習のモデル事業「最終報告」について（総括）

仙台市教育委員会
学校規模適正化推進室

1 各モデル事業の実施内容にかかる最終報告の概要について

(1) 秋保小学校・湯元小学校・馬場小学校・秋保中学校の交流事業

実施学年は 5 学年（3 校計 39 人）1 回と 6 学年（3 校計 32 人）5 回であった。5 学年は陸上記録会へ向けての顔合わせと応援練習を行った。6 学年において、修学旅行関連では、事前に見学先での交流活動に向けての話し合いを行った。また、陸上記録会に向けて、合同練習会を湯元小を会場として行った。また、秋保中学校では、外国語活動の体験授業と中学校ガイダンスを行っている。

<児童生徒の反応>

初めて顔を合わせたときは緊張した雰囲気の中、進んで話をするような場面が見られなかったが、自己紹介や司会などの役割を通して相手に自分の思いや考えを少しずつ伝え、互いに達成感を味わうことができた。

陸上記録会の練習会は、宮城野原陸上競技場を会場として予定していた分が雨天中止となったが、湯元小での練習会を通して、多様な能力に触れ合い自分の力をさらに伸ばそうとする面が見られた。また、中学校の英語の授業では、緊張した雰囲気の中で課題に対し真剣に取り組み、相手とコミュニケーションをとろうとする姿が見られた。

<実施内容の評価>

カリキュラムの位置づけとして、5・6 学年とも総合的な学習の時間の中に、秋保三校交流学習の内容をテーマとして位置づけている。また、回数としては、2 年間 5 回ずつ行ったのは、適当であった。また、幹事校を決め計画立案し、当日の授業における役割分担を事前に決めスムーズな運営につなげた。

<教員の対応と評価>

交流学習担当者同士で事前に打合せをすることを通して、各校の児童の実態や校内体制等の情報交換をすることによって、交流学習についての理解を深め、目標を達成するための手立てを共有することにつながった。

今後の課題として、幹事校担当者から次年度幹事校への確実な引継ぎと、高学年担任から次年度担任への確実な引継ぎをすることが、交流学習の内容をさらに充実させるために大切な点であるととらえる。

<総合評価>

「多様な人間関係の中で、適切に自己を表現する力と他者を理解しようとする人間性をはぐくむ」という事業目標に関しては、2 年間の交流学習事業を通して一定の成果が見られた。交流のための交通費が家庭への大きな負担となっていたので、今後も小規模校への継続的な支援について要望があった。

(2) 根白石中学校及び住吉台中学校の交流事業

唯一中学校間での交流学習であり、1 学年（根白石中 40 名・住吉台中 101 名・計 141 名）、2 学年（根白石中 22 名・住吉台中 86 名・計 108 名）、3 学年（根白石中 40 名・住吉台中 115 名・計 155 名）、を対象に行った。合唱コンクールに向け、それぞれ 3 回の音楽の交流を実施した。根白石中学校の相手校として参加している住吉台中学校は一定規模校である。

＜児童生徒の反応＞

根白石中も住吉台中も全学年良い緊張感を持って合唱練習に望むことができた。特に、2・3学年は、交流学习2年目と言うこともあり、互いに高めあい、より良い合唱に仕上げようとする雰囲気が高まった。また、たくさんの教師陣に支えられたことにより、自信を持って課題を追求し、意欲的に合唱練習に取り組むことができた。

＜実施内容の評価＞

合唱コンクールの課題曲を統一し、各学年3回ずつの合同練習を行い、互いの良さを感じながらより良い合唱に仕上げようとする態度が養われ、大変効果的であった。また交流学习の目的の達成、授業時数確保の両面から考え、各学年3回の実施は適当であった。また、昨年度の反省を踏まえ、交流学习の時間を6校時に設定し移動時間のロスを極力押さえた点は良かった。今後の課題として、生徒が時間ごとに交流学习の目的である互いに高めあうという点についての事前の意識付けについて、さらに確認して取り組むべきであったことが挙げられる。

＜教員の対応と評価＞

他校の合唱練習の状況を見たり、教師同士が情報交換をしたりすることができ参考になった点や、事前の連絡を十分に行うことが、スムーズな運営につながった。今後の課題としては、両校の進度を合わせ、練習のプログラムを詳細に検討することで、より効果的な授業に臨めるような更なる工夫が必要である。また、そのための事前の音楽科教師同士の事前打合せの時間確保が課題となる。

＜総合評価＞

震災により、間借りでの授業再開等があり、合唱コンクールも市民センターのホールでの実施となった。そうした中、住吉台中学校との交流学习は生徒への励みとなり、学級の団結力を強め、大変思い出になる合唱コンクールを開催するに至った。次年度へ向け、全学年単学級であることから、交流学习を通してより多くの仲間とかかわり合い学び合う楽しさを体験させ、表現力の豊かさを高めていきたい。

2 「最終報告」の総括について

平成22年度から2年間行った2つの地域におけるモデル事業に関しては、初めての3校での交流学习と初めての中学校間での交流学习として開始した。両事業において、学校間での様々な工夫により、日頃から少ない人数の中で過ごしている児童や生徒にとって、相手を意識し表現する活動は効果的であり、多様な人間関係の中での様々なかかわりの中で、よい意味での緊張感が生まれ多くのことを学ぶ機会となった。

今後の課題として出されていた各校間の連絡調整も、日程に関しては幹事校を中心に教頭間で行い、担任間での調整を授業実践の内容に専念できるようにするなどの工夫を加えた。

また、中学校では、合唱を通しての交流学习において、震災による校舎移転などの様々な苦労があった中、互いの合唱を聴き合ったり、一緒に歌ったりする中で生徒にとって大きな励みになり、このことが、その後のコンクールにおける発表へと結びついた。また、これまで一事業であった中学校間の交流学习が、三事業に広がりを見せることについて、これまでの交流事業がもたらした効果だと考えられる。

教師側においても、他校の同学年や同じ教科担当の教師の指導法をみることで勉強になることも多く、様々な情報交換を行う機会にもなった。

以上のことから、これまで交流学习に取り組んだ学校においてもその効果が認められており、改善すべき点については検討を加えながら今後も継続し、その効果をより大きなものにしていく必要があると考える。大勢の子どもや教師が関わることのよさはアンケート結果にも反映されており、今後は、これまでの交流学习の成果を踏まえ、出された課題については調整を行いながら、平成21・22年度モデル事業校同様にモデルをはずして次年度の事業を進めていきたい。

平成 22・23 年度 山間部等の学校における交流学習モデル事業「最終報告」

仙台市立秋保中学校

仙台市立秋保小学校

仙台市立馬場小学校

仙台市立湯元小学校

標記モデル事業のうち、今年度実施した内容について、下記のとおり報告いたします。

1. 事業目標 (テーマ)	学校間交流を通じて、多様な人間関係の中で適切に自己を表現する力と他者を理解しようとする人間性を育む。
2. 課題認識	多様な人間とのふれ合いやコミュニケーション能力を育む機会が乏しい。
認識の背景 又は理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の学校生活の中で関わるができる同学年の児童が限られてしまう。 ・ 長期間限られた人間関係の中で過ごしてきているため、児童相互の意思疎通が容易である反面、コミュニケーション能力が育ちにくい。
3. 実施内容 (23 年度分)	※省略

4. 児童生徒の反応	
①交流活動 時の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて顔を合わせたときは緊張する場面も見られたが、全員での自己紹介や司会をする場面では少しずつ相手に意思を伝え、互いに達成感を持つことができた。 ・ 陸上競技場での練習会は雨天中止になったが、湯元小での練習会を通して、他者の多様な個性や能力を知り、自分の良い面をさらに伸ばそうと、意欲的であった。 ・ 中学校ガイダンスの外国語活動体験では、顔なじみのALTや秋保三校の友達と積極的に英語表現のコミュニケーションを図ろうと意欲的に取り組んだ。
②交流学習を 通して表れ てきた変化	児童はそれぞれの学校では少人数の固定的な人間関係の中で6年間を過ごしているが、三校交流学習によって多くの異質な個人と継続的に関わることによって、コミュニケーションしようとする意欲を高め、交流学習の場面でも自分の思いや考えを普段の学校生活とは異なる場面でも伝えられるようになってきた。

5. 実施内容の評価	
①年間を通してのねらい	<p>(期待する効果) 交流学习を通して多様な人間関係の中で適切に自己を表現する力と、他者を理解しようとする力を高める。 (カリキュラムの位置づけ) 5・6学年とも総合的な学習の時間の中に、秋保三校交流学习をテーマにして位置付け、湯元小では5学年は5時間、6学年は15時間を計画している。</p>
②活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・5学年は陸上記録会に向けて応援練習と顔合わせの交流を行った。 ・6学年は修学旅行の事前に見学先での交流活動の準備について話し合った。 ・陸上記録会に向けて競技場での練習(雨天中止)と湯元小での合同練習会を実施し、陸上競技を通して交流活動を行った。 ・中学校ガイダンスでは、秋保中の生徒会役員による中学校生活の説明や部活見学、外国語活動の体験授業を通して秋保三校の児童が交流学习をした。
③実施回数	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で合計5回は適当であった。 ・5学年時は、陸上練習会(湯元小)で顔合わせと応援練習(1回) ・6学年時は、修学旅行事前打ち合わせ(1回)、合同陸上練習会(2回)、秋保中学校ガイダンス(1回)、計4回実施
④交流を進める上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・幹事校が中心となって計画し、指導内容の分担を行った。 ・秋保三校が輪番で交流学习の幹事校を担当する。本年度は湯元小、新年度は秋保小。
⑤今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の目的地が今年度は震災の影響で岩手県になったが、新年度は福島の会津方面に戻すことで秋保三校の保護者からも同意を得ている。会津若松市内の小学校との交流学习も計画している。 ・秋保地区の児童に必要なコミュニケーション能力を伸ばしていく秋保地区独自の交流学习のあり方を探っていきたい。
6. 教員への影響	
①交流を通して得られたメリット	秋保三校の担当者同士で事前に打ち合わせをすることを通して、各校の児童の実態や交流学习に関わる校内体制等について情報交換をすることによって、交流学习について理解を深め、目標を達成するための手だてを共有できた。
②事務的・時間的な負担	交流学习についての計画・準備・実践・評価・報告は、関係3~4校の担当者(教頭・担任・校長)に了解・承認・決済を得る必要があるため、事務的な手間と時間が予想以上にかかってしまった。
③負担を軽減するために工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学习についての事務的な手続きや日程調整等の渉外面は、各校の教頭間で連絡を取り合って計画したので、担任は実践活動に専念して取り組んだ。 ・事前の話し合いは最小限にとどめ、担当者同士は電話・FAX・Eメールなどで連絡を取り合い、データのやり取りも行った。
④今後の課題	今年度担当幹事校担当者から、次年度幹事校担当者へ確実に引き継ぐとともに、今年度実施した交流学习について各校の今年度の高学年担任が自校の新年度の高学年担任へ確実に引き継ぎをすること。
7. 総合評価	
①今年度分の総括	「学校間交流を通じて多様な人間関係の中で適切に表現する力と、他者を好意的に理解しようとする人間性を育む」という事業目標については、一定の成果が見られた。
②来年度実施へ向けた対応	特に修学旅行に向けての交流学习については、方面や内容も含めて事前に秋保三校で協議していく必要がある。
③その他	秋保三校交流学习のため交通費は各家庭にとって大きな負担になっている。今後も少人数の小規模校への継続的な支援を強くお願いしたい。

平成 22・23 年度 山間部等の学校における交流学習モデル事業「最終報告」

仙台市立根白石中学校

仙台市立住吉台中学校

標記モデル事業のうち、今年度実施した内容について、下記のとおり報告いたします。

1. 事業目標 (テーマ)	他校との交流学習を通して、音楽性を育成し、豊かな合唱づくりを目指す。
2. 課題認識	単学級のため、合唱を仕上げて行く過程において、高め合いや競い合いが無い ため、表現力を習得する機会が乏しい。
認識の背景 又は理由	・同学年の合唱に触れる機会がなく、表現力などの向上が難しい。 ・コンクールという性質を踏まえると他校の演奏を鑑賞する交流は貴重な経験 となる。
3. 実施内容 (23 年度分)	※省略

4. 児童生徒の反応	
①交流活動 時の様子	・全学年良い緊張感をもって合唱練習に臨んでいた。特に、2・3年生は、交流 学習 2 年目ということもあり、互いを高め合い、より良い合唱に仕上げようと する雰囲気が高まった。 ・たくさんの教師陣に支えられたことにより、自信を持って課題を追究し、意 欲的に合唱練習に取り組んでいた。
②交流学習を 通して表れ てきた変化	他校の合唱に望む態度や姿勢を間近で見て感じるにより、お互いの良い点、 改善すべき点を客観的に捉えることができ、それらの点について今後どのよう にしていくべきかを考えながら練習に取り組むことができた。
5. 実施内容の評価	
①年間を通し でのねらい	(期待する効果) ・他校とかかわり合いながら競い合う楽しさを実感させ、表現力を向上させる。 ・交流学習を通してより多くの仲間とのかかわり合いを持たせ、学び合う楽し さを体験させることにより、協調性・コミュニケーション力を高める。 (カリキュラムの位置づけ) ・両校が実施している合唱コンクールの課題曲を全学年に共通して、各学年 3 回ずつ合同で練習を行い、多様な表現に触れ合いながら豊かな合唱づくりを目 指す。

②活動内容	合唱コンクールの課題曲を統一して、各学年3回の合同練習を行い、互いの良さを感じながら、より良い合唱に仕上げようとする態度が養われ、大変効果的であった。
③実施回数	交流学习の目的の達成、授業時数確保の両方の観点から考え、各学年3回の実施は適切な実施回数であった。
④交流を進める上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省から、交流学习の時間はなるべく6校時に実施したため、前後の時間のロスが改善された。 ・両校で事前にしっかりと時間調整を行われていたので、スムーズに進めることができた。
⑤今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・両校の生徒が交流学习の目的や互いを高めあう合唱練習を行うためにはどのように取り組んだらよいかを事前に確認して取り組めると良かった。 ・生徒が時間ごとの目的を明確にし、具体的な目標を持って臨むことができるとさらに充実した交流学习を行うことができる。
6. 教員への影響	
①交流を通して得られたメリット	他校の合唱練習の状況を見たり、教師同士が情報交換をしたりすることができて参考になった。
②事務的・時間的な負担	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の交流学习を日を変えて実施したため、音楽担当教師の時間調整が大変だった。 ・両校の日程調整にかなり時間がかかった。
③負担を軽減するために工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡を密に取り合い、スムーズに実施できるように心がけた。 ・交流の時間は、なるべく6校時に行い、前後の時間のロスを無くすようにした。
④今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・両校の進度を合わせ、練習のプログラムを詳細に検討し両校の生徒・教師がより効果的に授業に臨めるように工夫していきたい。 ・各時間の指導内容について、事前に両校の音楽教師同士で打合せを行う必要があり、そのための時間の確保（調整）が難しく、今後の課題である。
7. 総合評価	
①今年度分の総括	本校は震災のため校舎や体育館が使用できず、根白石小と根白石市民センターに移転して授業を再開し、市民センターホールで合唱コンクールを実施した。いろいろな面で生徒への負担は大きかったが、住吉台中学校との交流学习は生徒への励みとなり、学級の団結力を強め、大変思い出に残る合唱コンクールを開催することができた。
②来年度実施へ向けた対応	来年度も全学年で交流学习を実施する予定です。全学年単学級のため、交流学习を通して、より多くの仲間とのかかわり合い学び合う楽しさを体験させ、表現力の豊かさを高めていきたいと考える。
③その他	

「平成 22・23 年度交流学習モデル事業 アンケート結果」より

《平成 22, 23 年度 秋保小・馬場小・湯元小》

平成 22 年度

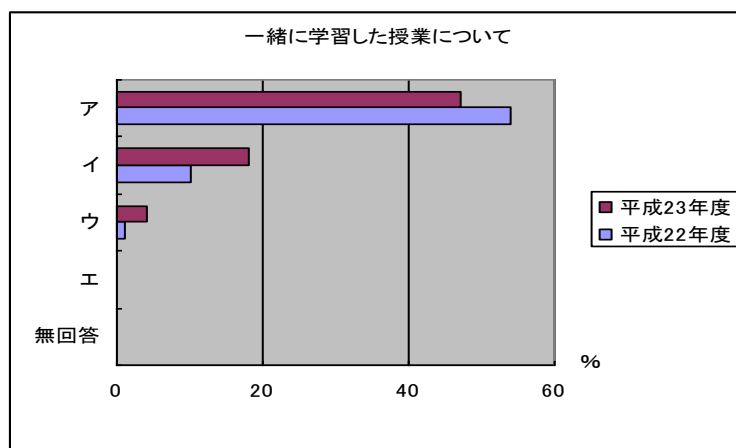
	秋保小	馬場小	湯元小
6 年生	8 名	10 名	15 名
5 年生	8 名	7 名	17 名
計	16 名	17 名	32 名

平成 23 年度

	秋保小	馬場小	湯元小
6 年生	8 名	7 名	17 名
5 年生	11 名	11 名	15 名
計	19 名	18 名	32 名

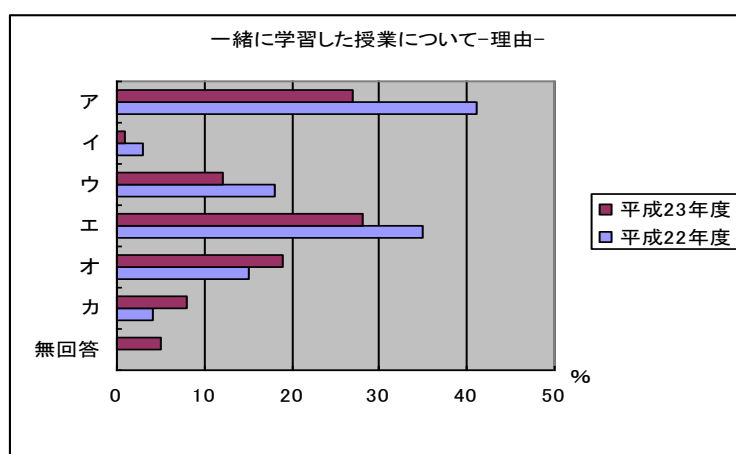
- 交流学習実施校の児童を対象に行ったアンケートから各校に共通している質問項目に関して一部抜粋したものになる。

1 みんなと一緒に勉強した授業や活動は楽しかったですか。



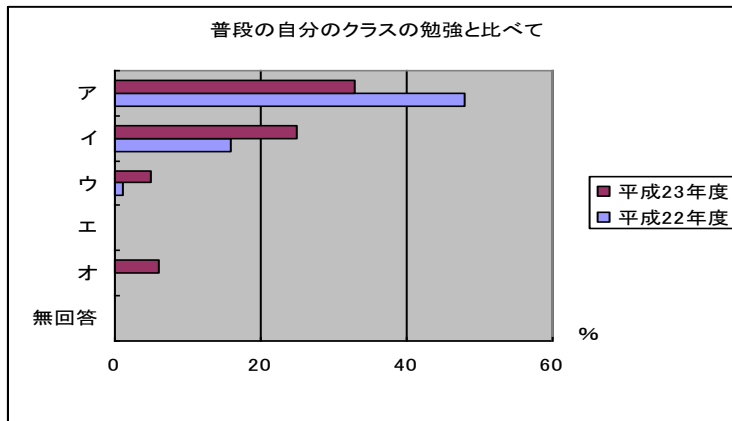
- ア：楽しかった
 イ：どちらかという楽しかった
 ウ：どちらかという楽しなかった
 エ：楽しなかった

2 楽しかった理由はどれですか。



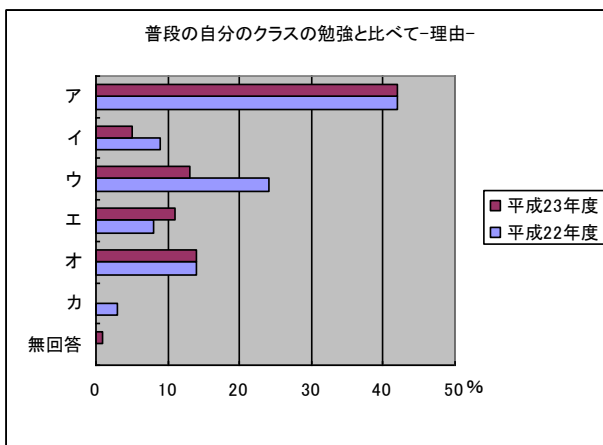
- ア：普段よりたくさん的人数で勉強できたから
 イ：普段よりたくさん先生がいて、丁寧に教えてもらったから
 ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の友だちから聞いたから
 エ：新しい友だちが出来たから
 オ：新鮮な気持ちで活動することが出来たから
 カ：その他

3 みんなと一緒に勉強したグループ活動や発表活動では、いつも自分のクラスだけで勉強しているときと比べて良かったと思いますか。



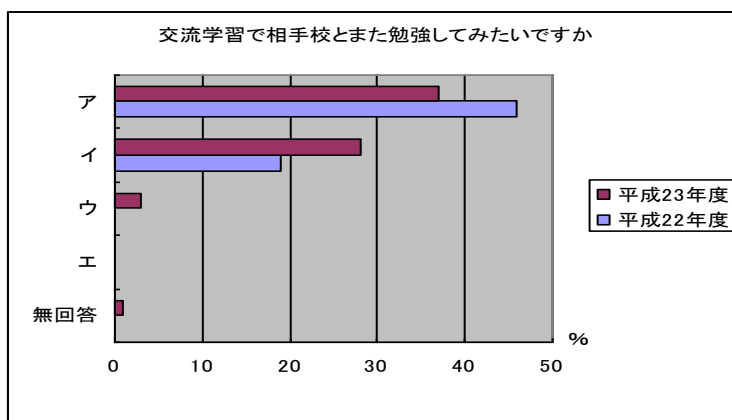
- ア：良かったと思う
- イ：どちらかという良かったと思う
- ウ：どちらかという良くなかったと思う
- エ：良くなかったと思う
- オ：分からない

4 「良かったと思う」「どちらかという良かったと思う」と答えた人にお聞きします。その理由はどれですか。



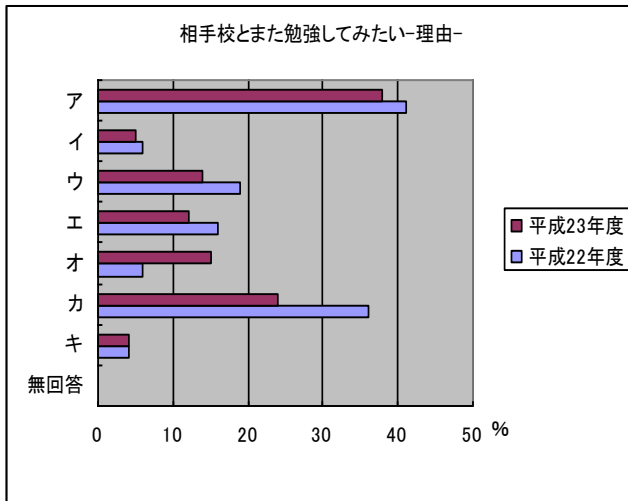
- ア：普段よりたくさん的人数で勉強できたから
- イ：普段よりたくさん先生がいて、丁寧に教えてもらえたから
- ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の人から聞いたから
- エ：他の学校の人に自分の考えを伝えるために普段以上に工夫したから
- オ：新鮮な気持ちで考えることが出来たから
- カ：その他

5 また、他の小学校のみんなと勉強してみたいと思いますか。



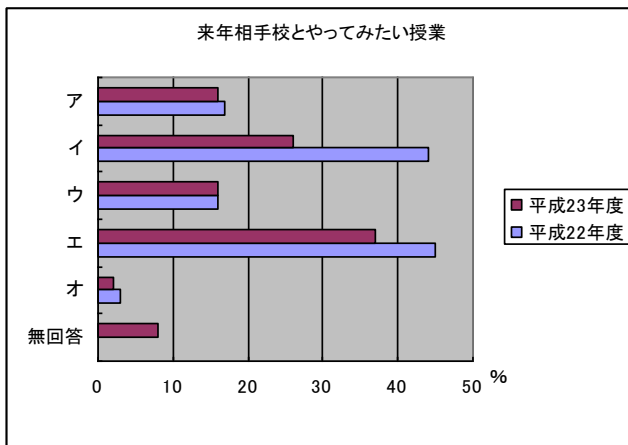
- ア：回数をもっと増やしてやってみたい
- イ：今のままの回数でやってみたい
- ウ：回数を減らしたい
- エ：やりたくない

6 そう思った理由はどれですか。



- ア：普段よりたくさん的人数で勉強できるから
- イ：普段よりたくさんの先生がいて、丁寧に教えてもらえるから
- ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の人から聞けるから
- エ：他の学校の人たちの走り方や泳ぎ方、歌い方を見ることができるから
- オ：普段よりたくさんの人たちと競争できて楽しいから
- カ：普段はできない学校の外での活動ができるから
- キ：その他

7 来年他の小学校のみんなと一緒にやってみたい授業や活動があるとすれば、それはどのような内容が良いですか。



- ア：国語、算数、社会、理科、音楽、家庭科などの授業
- イ：混合チームを作って何かを調べたり、一緒に体験したりする活動
- ウ：運動会、学芸(学習会発表)会などの学校行事
- エ：ドッジボール大会などのイベント
- オ：その他

《根白石中・住吉台中》

平成 22 年度

	根白石中	住吉台中
2 年生	37 名	36 名
1 年生	21 名	28 名
計	58 名	64 名

平成 23 年度

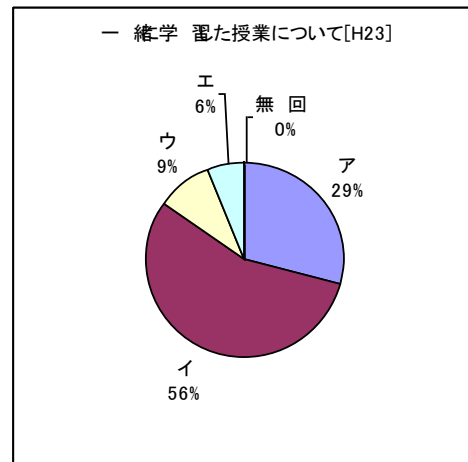
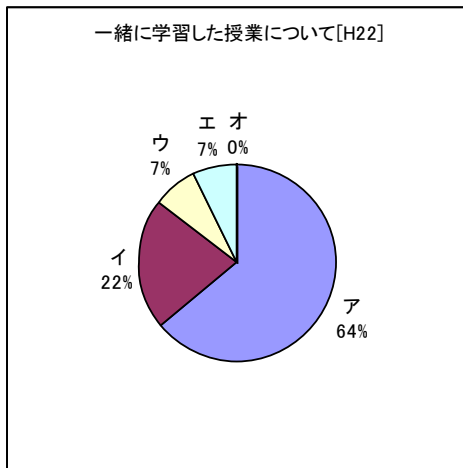
	根白石中
3 年生	38 名
2 年生	21 名
1 年生	40 名
計	99 名

- 交流学習実施校の生徒を対象に行ったアンケートから一部抜粋したものになる。
- ※ 22 年度、23 年度でアンケートの対象範囲が異なっている。
- ※ 年度により質問内容、回答の選択内容が異なっている質問は、年度ごとにアンケート結果を示している。

<平成 22, 23 年度 根白石中>

1 一緒に学習した授業について

- ・住吉台中の生徒と一緒に交流した授業は、どうでしたか。[H22]
- ・住吉台中との交流学習はよりよい合唱づくりに役立ったと思いますか。[H23]

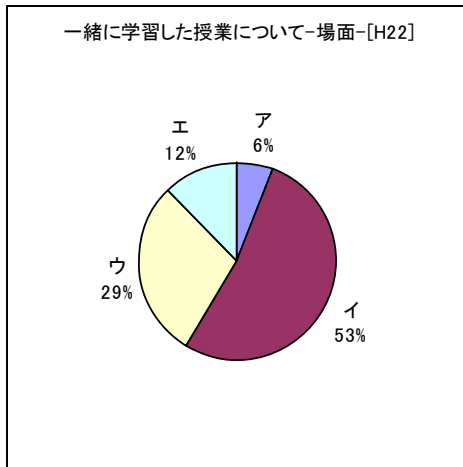


- ア：パートや合唱の練習がきちんとできた
- イ：住中の生徒との交流が楽しかった
- ウ：パートや合唱の練習がうまくできなかった
- エ：住中の生徒との交流が楽しくなかった
- オ：その他

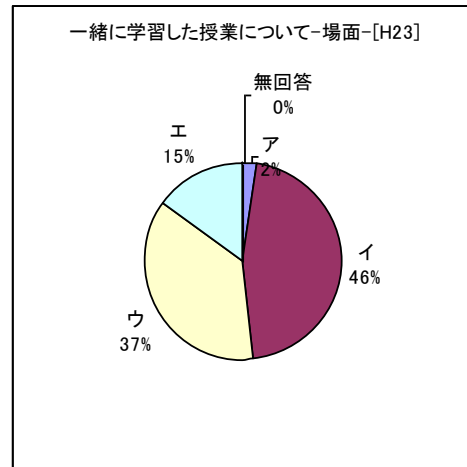
- ア：役立ったと思う
- イ：どちらかというと役立ったと思う
- ウ：どちらかというと役立たなかったと思う
- エ：役立たなかったと思う

2 一緒に学習した授業について—場面—

- ・きちんとできた, 楽しみだったのはどの場面ですか。 [H22]
- ・合唱づくりに役立ったと思うのはどの場面ですか。 [H23]



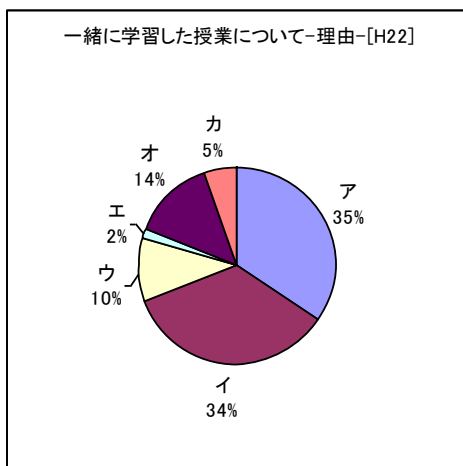
- ア：顔合わせの時
 イ：パートごと歌の練習をするとき
 ウ：両校でそれぞれ合唱の発表を行ったとき
 エ：全体で一緒に合唱の発表を行ったとき



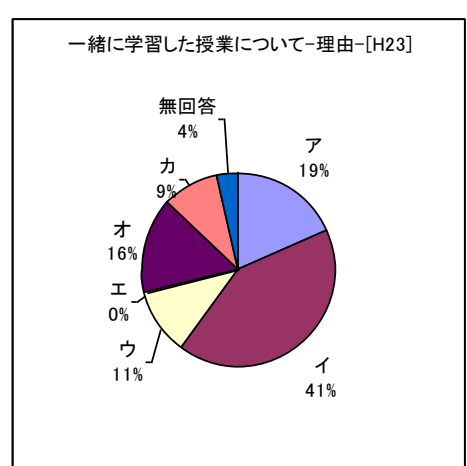
- ア：顔合わせの時
 イ：パートごと歌の練習をするとき
 ウ：両校でそれぞれ合唱の発表を行ったとき
 エ：全体で一緒に合唱の発表を行ったとき

3 一緒に学習した授業について—理由—

- ・きちんとできた, 楽しみだった理由は次のどれですか。 [H22]
- ・合唱づくりに役立ったと思う理由はどれですか。 [H23]



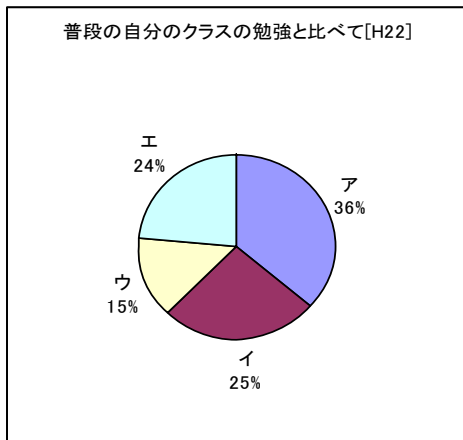
- ア：普段よりたくさん的人数で勉強できたから
 イ：普段よりたくさん人数の先生がいて, 丁寧に教えてもらったから
 ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の友だちから聞いたから
 エ：新しい友だちができたから
 オ：新鮮な気持ちで活動することができたから
 カ：その他



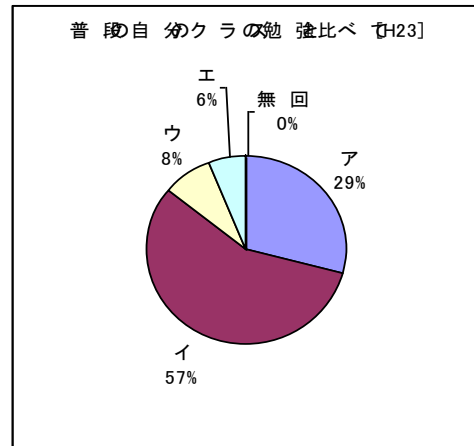
- ア：普段よりたくさん人数で学習できたから
 イ：普段より多くの先生がいて, 丁寧に教えてもらったから
 ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の友だちから聞いたから
 エ：新しい友だちができたから
 オ：新鮮な気持ちで活動することができたから
 カ：その他

4 普段の自分のクラスの勉強と比べて

- ・住吉台中の生徒との音楽の授業で、普段の自分のクラスだけのときと比べて違いがあったと思いますか。[H22][H23]



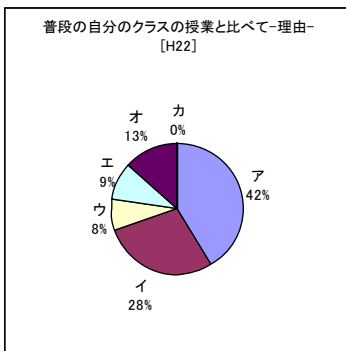
- ア：パート練習や合唱をするときに、いつもより声を出すことができた
- イ：リハーサルの時に、いつもより声を出すことができた
- ウ：あまり意欲がもてなかった
- エ：気持ちはいつもとかわらない



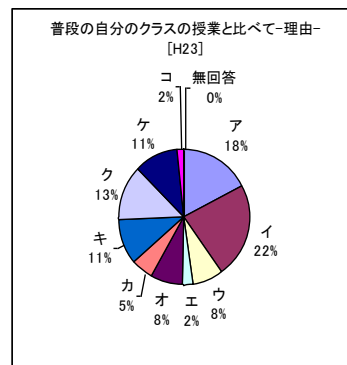
- ア：良かったと思う
- イ：どちらかというと良かったと思う
- ウ：どちらかというと良くなかったと思う
- エ：良くなかったと思う

5 普段の自分のクラスの勉強と比べて—理由—

- ・自分のクラスだけで合唱するときと比べて、違いがあったと思いますか。[H22]
- ・自分のクラスだけで合唱するときと比べて、よかったと思いますか。[H23]

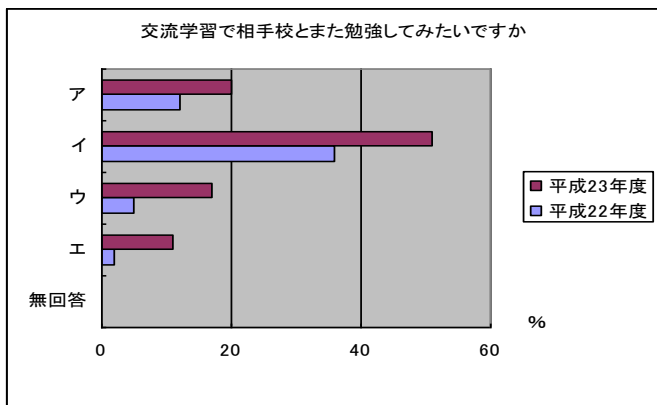


- ア：普段よりたくさん的人数で練習できたから
- イ：普段より先生がいて、いろいろな方法で教えてもらったから
- ウ：学校では出なかった意見や考えを住中の人から聞けたから
- エ：住中の人に自分達の合唱を伝えるために普段以上に声を出したから
- オ：新鮮な気持ちで合唱をすることができたから
- カ：その他



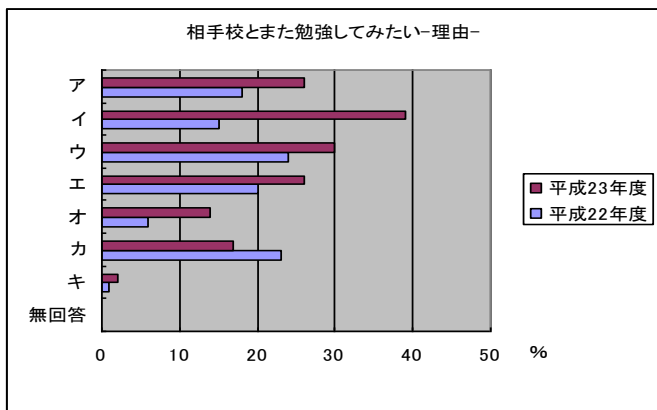
- ア：普段よりたくさん的人数で練習できたから
- イ：普段より先生がいて、いろいろな方法で教えてもらったから
- ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の人から聞けたから
- エ：他の学校の人に自分達の合唱を伝えるために普段以上に声を出したから
- オ：新鮮な気持ちで合唱をすることができたから
- カ：普段より声を出すことができたから
- キ：向上心を持ち、意欲的に取り組むことができたから
- ク：互いの良さや改善点を考え、練習に生かすことができたから
- ケ：大人数の合唱を聞くことができたから
- コ：その他

6 また、他の中学校のみんなと勉強してみたいと思いますか。



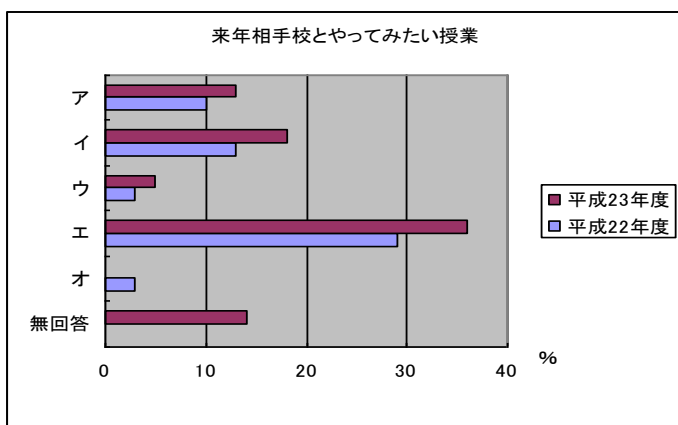
- ア：回数を増やしてやってみたい
- イ：今のままの回数でやってみたい
- ウ：回数を減らしたい
- エ：やりたくない

7 またやりたいと思った理由はどれですか。



- ア：普段よりたくさん的人数で練習できるから
- イ：普段よりたくさん先生がいて、いろいろな方法で教えてもらえるから
- ウ：学校では出なかった他の学校の人の歌や多くの合唱が聞けるから
- エ：他の学校の人たちの合唱の練習を見ることができるから
- オ：普段よりたくさんの人たちと競争できて楽しいから
- カ：普段はできない学校の外での活動ができるから
- キ：その他

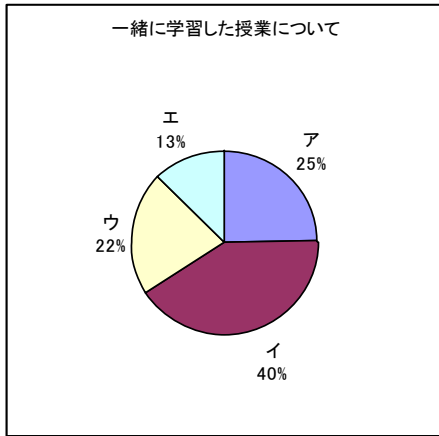
8 来年他の中学校のみんなとやってみたい授業や活動があるとすれば、それはどういう内容がいいですか。



- ア：国語, 数学, 保健体育, 美術, 音楽などの授業
- イ：両校合同のチームを作って何かを調べたり, 一緒に体験したりする活動
- ウ：職場体験発表会などの学年行事
- エ：球技大会や体育祭などの行事
- オ：その他

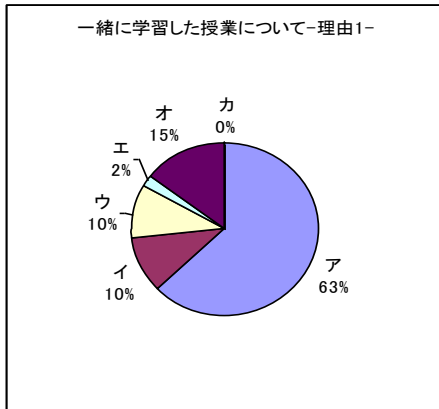
<平成 22 年度 住吉台中>

1 根白石中の生徒と一緒に勉強した音楽の授業では、合唱について有意義に学ぶことができましたか。



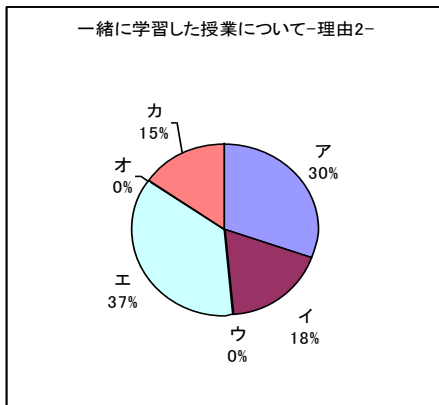
- ア：有意義に学ぶことができた
- イ：どちらかというとも有意義に学ぶことができた
- ウ：どちらかというとも有意義に学べなかった
- エ：有意義に学べなかった

2 有意義に学べた理由はどれですか。



- ア：普段と違い他校の人と勉強できたから
- イ：普段よりたくさんの先生がいて、丁寧に教えてもらえたから
- ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の友だちから聞けたから
- エ：新しい友達ができただから
- オ：新鮮な気持ちで活動することができたから
- カ：その他

3 有意義に学べなかった理由はどれですか。



- ア：他校の人がいて、緊張したから
- イ：他校の先生がいて、落ち着かなかったから
- ウ：普段より自分が発言したり、活躍したりする場面が少なかったから
- エ：普通の授業と比べてつまらなかったから
- オ：嫌な人や無視する人がいたから
- カ：その他

平成23年度交流学習事業

○生出小学校・坪沼小学校

○作並小学校・大倉小学校

○根白石小学校・福岡小学校

実沢小学校

平成 23 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 5 学 年	第 6 学 年	第 学 年
生出小学校	10 人 (1 学級)	13 人 (1 学級)	人 (学級)
坪沼小学校	4 人 (1 学級)	6 人 (1 学級)	人 (学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 23 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目標 (テーマ)	学校間交流を通じて、多様な人間関係の中で適切に自己の表現する力と他者を理解しようとする人間性を育む。
背景・理由	日常の学校生活の中で関わることができる同学年の児童が限られてしまう。また、長期間限られた人間関係の中で過ごしてきているため、児童相互の意思疎通が容易な反面、コミュニケーション力が育ちにくい。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	6 月 9 日 (木)	5, 6 年	坪沼小学校	特別活動	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	7 月 15 日 (金)	5, 6 年	生出小学校	特別活動	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	9 月 6 日 (火)	5, 6 年	生出小学校	特別活動	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 4 回	9 月 13 日 (火)	5, 6 年	宮城野原陸上競技場	学校行事	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 5 回	11 月 29 日 (火)	5, 6 年	坪沼小学校	外国語活動	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 6 回	12 月 21 日 (水)	5, 6 年	生出中学校	総合的な学習の時間	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	出会いの会：お互いのことについて知る。	集合ゲーム後、自己紹介をし、ボールゲーム・風船リレー・ドッジボールを4チームに分かれて行う。
第2回	児童会まつり（よつばフェスティバル）：生出小学校の児童会まつりで、各校で模擬店を出店し、交流を図る。	生出小学校のよつばフェスティバルに参加し、お互いに模擬店を出店したり、お客になっていろいろな店を回って遊ぶ。
第3回	陸上記録会に向けた応援の練習：陸上記録会に向けて、合同で応援の練習をし、協力して成し遂げる良さを体験させる。	陸上記録会に向けた応援を互いに披露し、合同の応援の練習を考えて一緒に練習をする。
第4回	陸上記録会：第1地区の陸上記録会に参加し、互いの学校の選手の応援をすることで、団結力や所属感を高める。	陸上記録会に参加し、エントリーした種目に出場したり、互いの学校の選手を応援したりして、互いに団結力や所属感を高め合う。
第5回	外国語活動：自分のことについて、英語で交流校の友達に進んで話そうとする。	英語で友達同士であいさつを交わしたり、伝言ゲームや何でもバスケットなどのゲームを通し、友達と会話を楽しむ。
第6回	中学校の職場体験発表会へ参加：中学校で行われる職場体験発表会に参加する。	生出中学校の職場体験活動の発表会に参加し、生徒の学習の成果の発表を聞く。

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	（交流活動時の様子） 交流活動の1回目は表情が硬かったが、2回目以降は徐々に慣れてき、自然と会話が生まれるなどとても良い雰囲気での交流を図ることができた。
	（交流学习を通して表れてきた変化） 回を重ねるごとに会話や協力的な行動が増え、他校の児童の頑張りを素直に褒め称える様子が見られるようになった。中学校での生活を楽しみにしている子供が増えてきた。
授業内容の工夫	もともとあったカリキュラムに合わせて交流活動を計画し、授業時間や活動内容に負担が出ないように配慮した。中学校の授業を体験するように活動内容を工夫した。
運営面での工夫	（教員の負担、頻度・回数の適否、広報の手段等） 細かい連絡は電話やファックスで行い運営の業務の軽減を図った。それぞれの交流活動の担当を分担して、主体的に活動の運営に取り組もうとする意識を持つことができた。交流活動の様子は、それぞれの学校便りやホームページに掲載した。互いの学校を行ききしたりする手間や活動のための準備を考えると交流の回数は5～6回が適当である。

今年度の総括	同一学年の友達と触れ合うことの少ない児童にとっては、この事業を通して、協力したり切磋琢磨したりすることができ、良い刺激となった。特に6年生は、今年度で2回目ということもあって、顔なじみの友達が増え楽しそうに活動している様子が見ええた。児童の様子から中学校に行ってもよい関係を築いていってくれるだろうと期待できた。
次年度へ向けて	今年度は、中学校に行っても授業を体験する活動を組み入れた活動内容であった。次年度はもう一歩進めた形で、中学校の先生に授業してもらい、中学校の生活に触れる機会を設けていきたい。また、中学年における交流学习も検討していきたい。交流活動を進めるにあたって、交通手段の確保が大きな課題であるが、これからの交通費等の心配をすることなく活動を進めることができるとうれしい。

平成 23 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 5 学 年	第 6 学 年	第 学 年
大倉小学校	7 人 (1 学級)	2 人 (1 学級)	人 (学級)
作並小学校	10 人 (1 学級)	7 人 (1 学級)	人 (学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 23 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目標 (テーマ)	交流活動を通して、進んで自分の考えや思いを表現し、自分を見つめる児童の育成を図る
背景・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学校生活の中でかかわることができる児童に限られ、多角的なものへの考えや発想に触れたり、相互に切磋琢磨したりできる環境にない。 ・長期間限られた人間関係の中で過ごしてきているため、児童相互の意思疎通が容易である反面、コミュニケーション力が育ちにくい。 ・中 1 ギャップの解消とよりよい適応を視野に、早期からの交流が必要である。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	6 月 21 日 (火)	5, 6 年	作並小学校	総合的な学習の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	7 月 1 日 (金)	5, 6 年	大倉小学校	総合的な学習の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	9 月 2 日 (金)	5, 6 年	広陵中学校	体育	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 4 回	9 月 8 日 (木)	5, 6 年	大倉小学校	体育	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 5 回	12 月 1 日 (木)	5, 6 年	作並小学校	体育	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 6 回	12 月 15 日 (木)	5, 6 年	広陵中学校	外国語活動, 道徳	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	交流学習1回目であるので、お互いの学校の自己紹介を通し、顔合わせを行い、今後の交流活動の礎とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いの会 ・ 温泉体験 ・ 合同給食
第2回	それぞれの地域ならではの体験活動を通し、互いの地域を知るとともに、交流を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ カヤック体験 ・ 湖上での水遊び ・ 合同給食
第3回	陸上記録会参加に向けて、中学校の先生から陸上の指導を受けるとともに、合同で練習することを通し主体的にかかわらせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上記録会に向けての準備運動の仕方 ・ 陸上練習⇒雨のためボールゲームに変更
第4回	陸上記録会参加にむけて合同で陸上練習を行いながら、友達と主体的にかかわる機会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種目に分かれての陸上練習
第5回	両校の児童がバスケットボールのチーム編成を通し、練習・作戦・ゲームに取り組み、友達と主体的にかかわる機会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会式 ・ 交流、試合 ・ 閉会式
第6回	中学校の英語教諭やALTとともに行う外国語活動を通して、コミュニケーション力を高めるとともに主体的なかわりをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校1年「英語」の授業参観 ・ 中学校生活のオリエンテーション

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	<p>（交流活動時の様子） 交流当初は遠慮がちであったが、相互の地域を訪問し、その土地ならではの体験活動を共に行ってきたことにより、その後の交流活動を経るごとに親密感を徐々に高めることができた。</p>
	<p>（交流学習を通して表れてきた変化） 市の陸上記録会では合同でリレーチームを編成したり、合同で自然に応援する姿が見られた。交流により児童は一体感をもって参加できたようであった。</p>
授業内容の工夫	その土地ならではの体験活動を取り入れることにより、各学校の児童がそれぞれ自分の住む地域を見つめなおす機会となるようにした。また、中学校への接続を考慮し、中学校に協力いただきながら中学校に慣れるような取り組みを行った。
運営面での工夫	<p>（教員の負担、頻度・回数の適否、広報の手段等） 事務的な面は両校の教頭が行い、授業の詳細については各担任が電話やファックスを利用して、できるだけ負担にならないよう配慮してきた。</p>

今年度の総括	地域の特性をいかした体験活動を取り入れた交流活動は、少人数環境で生活する児童にとっては交流のきっかけ作りが容易であるなど効果的であった。今年度は、陸上記録会で合同チームを編成したり、応援を合同で行ったりすることに発展できたことはとてもよかった。
次年度へ向けて	数少ない交流の機会が時間的には短いときもあったので、交流内容を工夫し、1日を使って交流できないか考えていきたい。また、内容についてもイベント的要素が若干強い感のある交流が中心であったので、校外学習(教科)を合同で行うなど、より幅の広い交流も考えていきたい。

平成 23 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
根白石小学校	19 人 (1 学級)	18 人 (1 学級)	19 人 (1 学級)
実沢小学校	5 人 (1 学級)	4 人 (1 学級)	4 人 (1 学級)
福岡小学校	11 人 (1 学級)	11 人 (1 学級)	8 人 (1 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 23 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目標 (テーマ)	かかわり合い、豊かな人間性を育てる 学校間交流学習の創造
背景・理由	小規模校であるため、学校生活の中でかかわることのできる同学年児童が限られている。そのため、分かり合える人間関係である反面、表現力が育ちににくい。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	7 月 12 日 (火)	4 年	天文台	理科	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	7 月 19 日 (火)	6 年	実沢小学校 (体育館)	体育	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	9 月 5 日 (火)	5 年	セントラル自動車	社会	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 4 回	9 月 20 日 (火)	6 年	根白石小学校 (体育館)	音楽	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 5 回	10 月 4 日 (火) 5 日 (水)	6 年	岩手県 盛岡・花巻方面	総合的な学習の時間 学校行事	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> その他 (学校対応)
第 6 回	11 月 8 日 (火)	6 年	天文台	理科	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・3校の同学年（4年）と天文台学習をすることにより星の特徴について課題解決学習をして考えさせる。 ・バスの中や天文台内で多様な考え方に触れ合いコミュニケーションを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中での交流学習（学校紹介等） ・天文台学習（プラネタリウム鑑賞等） ・3校混合のグループに分かれて、天文台内での課題解決学習。
第2回	3校の同学年（6年）混合チームで、ソフトバレーボールの試合をすることにより、運動技能の向上と交流を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・3校混合のチームに分かれて、自己紹介をし、チームリーダーを決める。 ・チーム対抗の試合をする。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・3校の同学年（5年）とセントラル自動車の見学をし、工業生産の過程を知る。 ・バスの中や見学中に多様な考え方に触れ合い、コミュニケーションを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中での交流学習（学校紹介等） ・セントラル自動車の見学、質疑応答。 ・3校混合のグループに分かれて、自己紹介、アスレチックをする。・外国語学習。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・3校の同学年（6年）による修学旅行の結団式で、修学旅行のきまりを確認する。 ・音楽の授業で合奏を取り上げ、大人数での音の響きや楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の結団式 ・3校児童による合奏練習
第5回	3校の同学年（6年）による修学旅行を体験することにより、児童同士様々な交流活動を行い、コミュニケーションを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・3校混合のグループに分かれて、見学やグループ活動をする。 ・ホテル宿泊を通じて、3校児童の共同生活体験をする。
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・3校の同学年（6年）と天文台学習をすることにより、月と太陽の動きや特徴をについて課題解決学習をして考えさせる。 ・バスの中や天文台内で多様な考え方に触れ合い、コミュニケーションを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中での交流学習（学校紹介等） ・天文台学習（プラネタリウム鑑賞等） ・3校混合のグループに分かれて、天文台内での課題解決学習。

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	（交流活動時の様子） <ul style="list-style-type: none"> ・同じ中学校区に住む子どもたちなので、同じペースで交流できた。特に幼稚園や保育園が同じ児童達はすぐ交流できた。 ・どの児童もなかよく、温かい雰囲気でも活動できていた。
	（交流学习を通して表れてきた変化） 積極的に今まで触れあつたことのない児童とコミュニケーションを取るよう努めており、人間関係ができていた。このことは、今後の学校生活を送る上でプラスになるとともに、中1ギャップの解消につながると思った。
授業内容の工夫	できるだけ交流の場を多くするため、3校の児童を分けてグループを構成し、活動させた。出会いの場で必ず自己紹介をし合い、グループのリーダーを決めさせた。活動に当たっては、それぞれのグループに責任をもたせた。
運営面での工夫	（教員の負担、頻度・回数の適否、広報の手段等） <ul style="list-style-type: none"> ・年度に入る前に3校で打合せをして具体的な計画を立てた。 ・3校の教職員が分担して、活動の運営をしたので、責任者としての仕事の軽減につながった。 ・回数は、修学旅行を含め、6回であったが、もう少し予算があると他学年の活動ができてよかった。
今年度の総括	交流学习を始める前は、教職員は負担が大きく大変ではないかと心配していたが、担当者間の打合せの時間の確保がうまくできればよい企画であった。
次年度へ向けて	交流学习をより、児童の心の成長を生み出すことができた。今後は低中学年にも機会を広げ、より計画的な中身の濃いものを推進していければと思う。更に大規模校との交流の機会も設けられれば心情面での大きな成長が望めると思う。

平成 24 年度交流学習事業について

平成24年度交流学習スケジュール（予定）

月	平成24年度事業						
	①生出小・坪沼小	②作並小・大倉小	③根白石小・福岡小 ・実沢小	④秋保小・馬場小 ・湯元小	⑤根白石中・住吉台中	⑥秋保中・南光台中	⑦広陵中・折立中
5月				31日【第1回】 6学年 秋保小・総合			
6月	11日【第1回】 6学年 坪沼小・特活				5日【第1回】 1学年 住吉台中・音楽		
		21日【第1回】 5・6学年 作並小・総合	22日【第1回】 6学年 実沢小・体育・学活		6日【第2回】 2学年 住吉台中・音楽		
7月		10日【第2回】 5・6学年 大倉小・総合			2日【第4回】 1・2・3学年 住吉台中・音楽	4日【第1回】 1・2・3学年 南光台中・音楽	6日【第2回】 1・2・3学年 折立中・音楽
	13日【第2回】 5・6学年 生出小・特活		19日【第3回】 4学年 天文台他・理科・社会			11日【第2回】 1・2・3学年 青年文化C・音楽	13日【第3回】 1・2・3学年 広瀬文化C・音楽
8月							
9月	5日【第3回】 5・6学年 坪沼小・特活	04日【第3回】 5・6学年 広陵中・体育		4日【第2回】 5・6学年 秋保中・総合			
	14日【第4回】 5・6学年 陸上競技場・学行	10日【第4回】 5・6学年 大倉小・体育		11日【第3回】 5・6学年 湯元小・総合		15日【第3回】 1・2・3学年(希望者) 南光台中・学行	
10月			30日【第4回】 6学年 天文台他・理科・社会				
11月			1日【第5回】 5学年 セントラル自動車・社会				
	29日【第5回】 5・6学年 生出小・未定 (小中連携)			30日【第4回】 6学年 秋保中・総合 (小中連携)			
12月		06日【第5回】 5・6学年 セントラル自動車・社会					
	18日【第6回】 5・6学年 生出中・総合 (小中連携)	18日【第6回】 5・6学年 作並小・広陵中・総合他 (小中連携)					
1月	意見交換会(実施校・対象校・教育センター・学校規模適正化推進室)						
			22日【第6回】 5学年 放送局他・社会				
2月							
3月							

平成 24 年度交流学習事業の実施内容（一覧）

実施校	実施学年・実施教科 等	目指す児童生徒の姿
生出小 坪沼小	生出小（5年：9名,6年：10名） 坪沼小（6年：4名）	<ul style="list-style-type: none"> 交流学習を通じて得た体験を動機づけとして、日常の学校生活の中で、一層のコミュニケーション力を身につけるようにする。
	特別活動（出会いの会）（児童会まつり） （陸上記録会練習） 総合的な学習の時間（生出中との連携授業）	
作並小 大倉小	作並小（5年：6名,6年：10名） 大倉小（5年：5名,6年：7名）	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動という新しい出会いを通して、互いの学校の友達と主体的・積極的にかかわりをもつ児童。 多くの友達と学びあう楽しさや意義を体感するとともに、進んで自分の考えや思いを表現する児童。
	総合的な学習の時間（出会いの会）（地域紹介） 体育（陸上記録会練習）（バスケットボール） 理科・社会（校外学習） 総合的な学習の時間（広陵中との連携授業）	
根白石小 福岡小 実沢小	根白石小（4年：14名,5年：20名,6年：18名） 福岡小（4年：7名,5年：11名,6年：11名） 実沢小（4年：4名,5年：5名,6年：4名）	<ul style="list-style-type: none"> 多様な意見や考え方に触れ合い、自己とは異なる立場や考え方を理解しようとする児童。 自己とは異なる立場や考え方を認め、他者を尊重しながら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童。
	学級活動（修学旅行結団式） 体育（ソフトバレーボール） 理科（校外学習） 社会（校外学習）	
秋保小 馬場小 湯元小	秋保小（5年：7名,6年：11名） 馬場小（5年：4名,6年：11名） 湯元小（5年：15名,6年：15名）	<ul style="list-style-type: none"> 同じ中学校に入学する仲間との交流を通して、多様な考え方や価値観に触れながら、意欲的に自分の考えを的確に表現しようとする児童を育てる。
	総合的な学習の時間（修学旅行準備） （陸上記録会練習）（秋保中との連携授業）	
根白石中 住吉台中	根白石中（1年：30名,2年：40名,3年：23名） 住吉台中（1年：69名,2年：101名,3年：87名）	<ul style="list-style-type: none"> 他校とかかわり合いながら競い合う楽しさを実感させ、表現力を向上させる。 交流学習を通してより多くの仲間とのかかわり合いを持たせ、学び合う楽しさを体験させることにより、協調性やコミュニケーション能力を高める。
	音楽（合唱）	
秋保中 南光台中	秋保中（1年：30名,2年：35名,3年：38名） 南光台中（1年：130名,2年：105名,3年：111名）	<ul style="list-style-type: none"> 学級のチームワークを大切にして、意欲的に合唱づくりに取り組む。 適度な緊張感の中で、練習の成果を精一杯出し切る。 他校の複数クラスとの合唱づくりや合唱発表での交流を通し、視野や経験の幅を広げる。
	音楽（中間発表）（合唱コンクール）	
広陵中 折立中	広陵中（1年：18名,2年：22名,3年：32名） 折立中（1年：103名,2年：105名,3年：108名）	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にチャレンジしようとする意欲を持って、共に学び合い、高め合う生徒 生徒同士のふれあいを深め、よりよい人間関係を構築できる生徒
	音楽（合唱）	

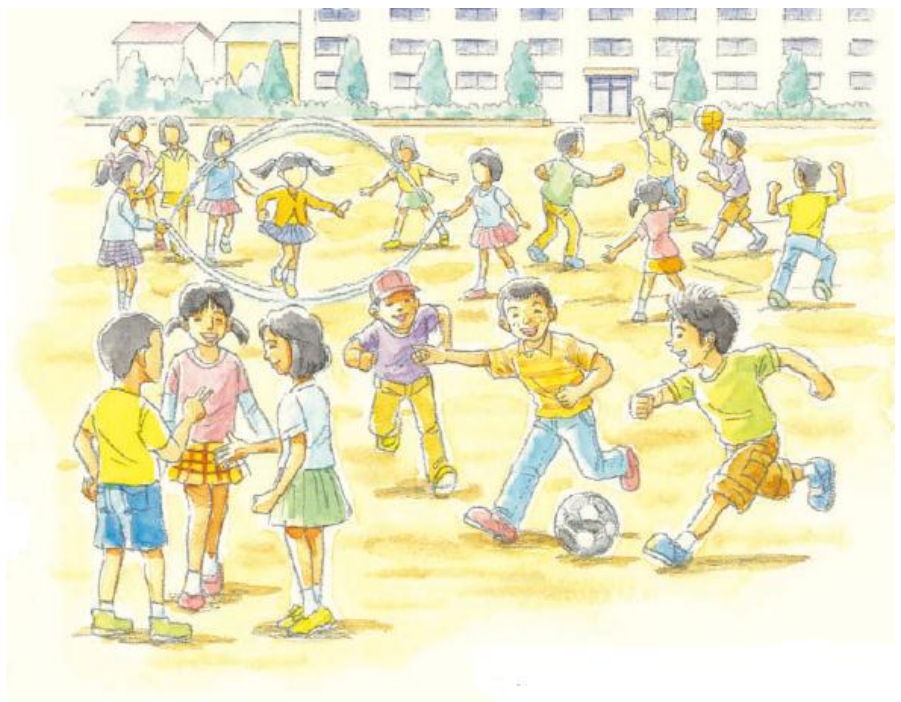
多彩な交流が 子どもたちの世界を広げます

M小学校 Y先生の話
(6学年担任)

ふだんの人数を超えて隣の学校と交流学習を行うことで、「総合的な学習」などにおける子どもたちの学習意欲が高まっていくことが伝わってきました。担任として、子どもたちが6年間同じメンバーで過ごすことをとても心配して



いました。最近、閉塞感がどうしても強まってしまい、互いに干渉しすぎ、言葉もきつくなりがちの様子が見られました。それが、「交流」という外へ目を向ける機会を得たことで、エネルギーが外へ放出される形となり、クラスの間関係もよい状態が続くようになりました。中学進学に向けても、大きな中学校に行くことで担任として不安を感じていましたが、交流学習で他校の人たちと積極的にかかわろうとする姿を見ていると、少し安心感が生まれています。



仙台市教育委員会事務局 総務企画部 学校規模適正化推進室

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-25

東二番丁スクエア 2階

電話:022-214-8432 FAX:022-264-4428

E-mail kyo019031@city.sendai.jp